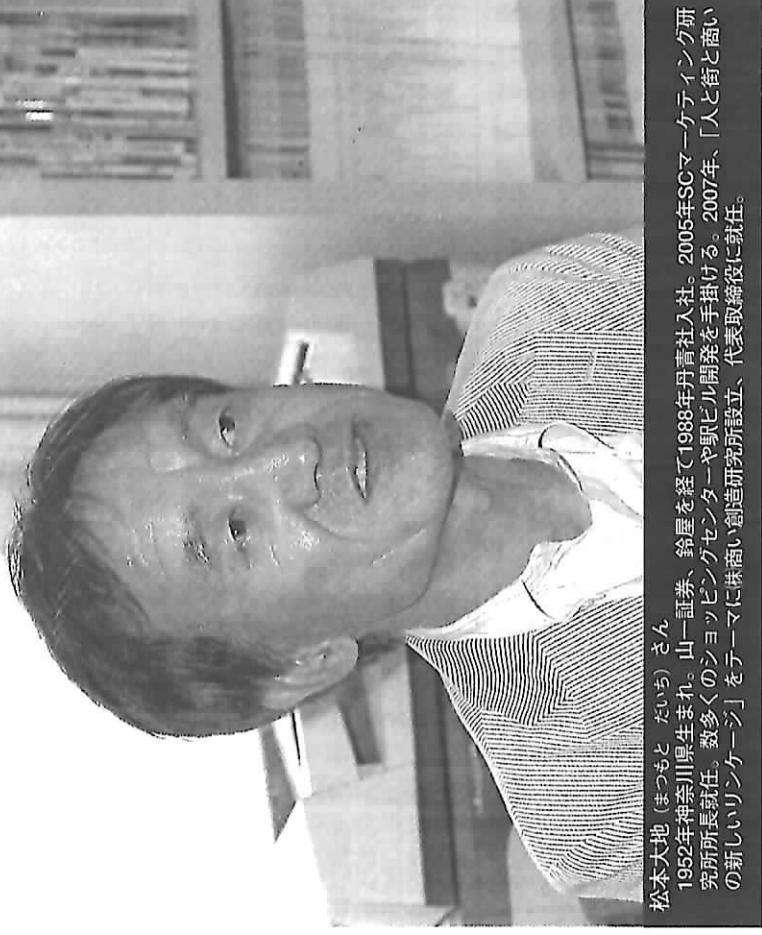
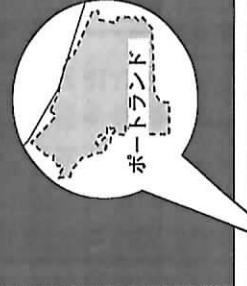


アメリカでいちばん 住みたい都市



松本大地 (まつもと たいち) さん
1952年神奈川県生まれ。山一証券、鈴屋を経て1988年丹音社入社。2005年SCマーケティング研究所所長就任。数多くのシミュレーションゲームをテーマにした新しいゲーム「新しいゲーム」をアーマーズマーケット設立、代表取締役役に就任。

しています。もちろんハイブリッドカーの普及も全米でトップですし、トヨタのプリウスが一番売れているのもポートランド。日産のリーフの全米販売のスタートもポートランドからでした。最初にポートランドを有名にしたのは公共交通システムでしょう。これはLRT（ライト・レール・トランジット）と呼ばれる次世代型路面電車「マックス」（1986年開業、市内中心部は無料）で、市内と郊外を結ぶ公共交通機関として街のシンボルになっています。LRTの導入に伴って市内から車を排除し、歩行者にも環境にもやさしいまちづくりを実現しました。これは車社会のアメリカでは画期的な出来事でした。いまでは、総路線延長が80キロを超え、路面電車とバスとの接続によって市内と郊外との移動がいつそう便利になり、交通渋滞が緩和されて自動車使用量も同規模の都市と比較すると2割程度低くなっています。また、カーシェアリングを全米で初めて導入したのもポートランドでした。

ぶりで「これは」と思うことについてお聞かせください。松本 ポートランドは、豊かな自然環境のおかげで、いい食材がそろった土地なんです。農業はオーガニックの野菜が豊富で、ヘーゼルナッツは全米で一番採れる。水質も良く、地ビールを醸造しているお店だけで40カ所もありますし、ワインもどこの品評会でも絶賛されます。また、太平洋沿岸部の主要港として漁業も盛んです。ですから季節を問わずいつでも食材が豊富なことから、人口一人当たりのレストランの数も全米で一番多い都市です。ファストフードやナショナルチェーンに頼らなくてもローカルなものがいっぱいある。もちろんマクドナルドもありますが、地元で人気があるのは地元の食材を使った「バーガービル」というお店です。マクドナルドはどこへ行っても同じ味ですが、バーガービルはご当地の味なんです。バーガービルは「全米で最も新鮮なファストフードチェーン」に選ばれています。

それから、このまちの暮らしに欠かせないものとして、1993年からスタートしたファーマーズマーケットがあります。市内4カ所に周辺の生産者によって250店が出店し、ポートランドを象徴するライフスタイルの一部になっています。ファーマーズマーケットは、単なる直売だけでなく、地元一流のシェフやパティシエが、子どもたちに調理やケーキ作りを教えたりもしています。そうすると子どもたちに、「将来、農業をやりたい」とか「ケーキ職人になりたい」といった夢や希望が自然とわいてくる。それがポートランド流の人づくりにつながっています。そのファーマーズマーケットを応援しているのが、



ニューシーズンズマーケットは地産地消の地元スーパー。

早くから、脱・車社会を模索したまち
— 各国のまちづくりにかかわる専門家はアメリカ・オレゴン州のポートランドに注目しているようです。松本さんも早くから思い続けて、研究をなさっているようですが、これほどまでに注目を浴びるのはなぜでしょうか。松本 ポートランドといつても

日本でももちろん「環境にやさしいまちづくり」や「持続可能なまちづくり」が話題になっている。しかし、アメリカには30年以上前からそのことを実践している都市がある。米国の西海岸に位置するポートランドは、世界最先端のエコシティ、未来の理想都市として世界中から熱い視線が寄せられている。そこで、ポートランド・ウォッチャーとして知られる（株）創造研究所の松本大地さんに、ポートランドのまちづくりや最新の事情について聞いた。

ご存じない方もいらっしゃると思いますが、アメリカ西海岸・オレゴン州最大の都市です。人口は約58万人ですから、日本では東京の杉並区や八王子市くらいの人口規模です。自然環境に恵まれ、気候も温暖なせいか、州の経済・金融の中心でありながら第1次産業も盛んです。その都市が全米で「最も暮

地元で15店舗を運営している「ニューシーズンズマーケット」というスーパーです。つまり、競合相手が、ライバルを応援しているわけです。それはなぜかというと、生産者（農家）がファーマーズマーケットに出店することが喜びとなって、生産意欲が向上すれば、どんどんいいものをいっぱい作ろうとする。当然、ファーマーズマーケットだけではさばき切れなくなる。それをニューシーズンズマーケットで引き受ける。そうするとニューシーズンズマーケットの品ぞろえも豊富になり、生産者から直接引き受けることができるので、いつも新鮮で最高の食材が店内に並ぶわけです。つまり、生産者の意欲を向上させることが自分たちの売り上げに結びついていくことを十分に認識しているのです。地産地消が生産から売り場まで完結し、持続可能なものになる。こうした循環経済を生産者も消費者も地元企業も一体となって意識的につくっているのがポートランドなんです。— 循環経済という工業や企業の活動も重要になってくると思いますが。松本 もちろん農業だけではなく工業も盛んです。自然環境に

恵まれているためアウトドアスポーツが盛んなこともあって、ナイキの本社もある。アディダス北米本社もありますし、IT産業もサンフランシスコのシリコンバレーに対して「シリコンフォレスト」と呼ばれるまでになりました。なぜなら多くの企業は、自然に恵まれ、住みやすいまちのトップに選ばれた環境のいいところに工場や本社を移転することで、社員のやる気やライフワークバランスも向上すると考えているからです。企業が集積すると人が集まり、消費も活発になって経済がますます活性化し、循環経済が持続可能なものになっていく。また事業税や固定資産税といった税収も増えていくことになる。オレゴン州は消費税がなく「買い物天国」と呼ばれています。つまり、ポートランドは環境と人にやさしいまちづくりを進めていけば、人や企業が集まり、まちがにぎわい、商売が活性化し、世界最先端のまちになっていったというわけです。

まちづくりの転機はオイルショック
— こうしたまちづくりを進めるようになったきっかけや背景を教えてください。

私は、1997年にアメリカナイキ社との仕事の関係で本郷がポートランドにあることから、縁ができました。当時から環境にやさしい街でしたが、最近、ますます進化を遂げています。例えば、震災以降、日本でも再生可能エネルギーが話題になっていますが、ポートランドでは再生可能エネルギーの使用率が高く、豊富な水に支えられた水力発電と再生可能エネルギーが主軸になっています。街の中に電気自動車用のスタンドがあふれ、路上のパーキングメーターのエネルギーもソーラーです。ユニークなものとして、ゴミ箱にもソーラーが設置され、ゴミ容量がいっぱいになると自動で上から圧縮して空き容量ができることで、回収車の出勤の頻度を減ら

ポートランド市 (Portland) DATA

☆発足年	1851年
☆愛称	Rose City (バラのまち)
☆気候	毎年6月にローズフェスティバルというイベントが開催されること有名。札幌とほぼ同じ緯度にあるが、気候は夏も平均20度程度暑い。降雪は年に5日間程度と一年を通じて過ごしやすい。
☆人口	56万8,380人 (2007)
☆産業	農業と林業が伝統的な基幹産業。今日ではハイテク、バイオ、ソフトウェアといったIT企業が集積。また、港湾都市で自動車輸出取扱台数では全米でトップ。

